

平成 27 年度第 4 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 7 月 30 日（木） 18：30 ～ 20：10

【場 所】 虹が原会館 和室

【出席者】 10 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	○
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	美 馬 康 子	○
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴田 志寿子		委員	盛 重 栄 司	○
委員	小笠原 英史		委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	
委員	河 野 すみれ	○	委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいいうお順

本 庁 ～ 企画課 上窪主幹

支 所 ～ 西田支所長・熊谷課長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・永澤主任・寺内主任
(地域振興課)

地域おこし協力隊 ～ 小島隊員・沼倉隊員

【傍聴者】 1 名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 情報交流（リラックス タイム）
 - ・地域の「ちょっといい話題」交流
 4. 報告事項
 - ・
 5. 協議事項
 - ・石狩市過疎地域自立促進市町村計画について
 - ・厚田区地域協議会活動報告小冊子について
 6. その他
 - ・次回会議の日程について
 7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。暑い中、大変ご苦勞様です。平成 27 年度第 4 回目の地域協議会に入る前に、築田委員、小笠原委員、柴田志寿子委員、今委員より欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成 27 年度第 4 回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： お晩でございます。結構、日が高くて外を見ると、こんにちはと言ってしまうそうになるんですけど、日が長い、それから今日は暑いという事で、何でも三つ言わないと気が済まないの、何かありませんかね、喉が渴いたとかというように、話しが少し脱線しましたけれども、大体、三つ揃うと話というのはまとまるので、起承転結というのは四つでしょ。だけど、四つの場合は三つ目で展開しないといけないので、結構、頭を使うんですよ。だから、今言ったように三つ。だから、話も三大話とか大体、三つ考えるんですけども、それじゃ、今日の挨拶三つ考えて来たかというと考えて来たんですね。

まず一つは、地域協議会は今年で 10 年目なんです。10 年目という事は、大体、石の上にも三年といえますので、この大体 3 倍です、職業で言いますと、プロの境地に入ってきているのが、この地域協議会なんです。

それと同時に、二つ目なんですが、マンネリ化するんですよ。10 年ほど続きますと段々マンネリ化してくる。それで、ある程度のところで妥協してしまうというのが、マンネリ化なんです。ですから、初心に帰りまして、地域協議会は今年が一年目だという気持ちで、また、更なる議論を進めて欲しいというのが二つ目なんです。

三つはですね、どうしてこの二つをお話したかと言いますと、地域協議会が生み出した最大の事業というのが、平成 30 年に展開されてきます「道の駅」なんです。これは、例えば、地域協議会から「複合施設」という物を造って欲しいという要望を出して、検討をしましょうと言って、この第 10 期の地域協議会が検討を始めました。で、幸いなるかな、或いは、結果的に不幸になるかは解りませんが、一応、「重点道の駅」に選ばれました。そうしますと、「複合施設」というものが、私達の“夢”であったのを、皆さんが色々な意見を言いまして、夢の段階は皆さん、非常に面白可笑しく、元気に夢を語っていただけたんですが、現実には建物が出来て、そこで物事をするとしたら、もう“夢”じゃないんですね。そうすると、この元々の発想は地域協議会ですから、それだけの責任をやっぱり負わなければならないという重責を負うという事なんです。ですから、三大話の三つ目というのは、地域協議会が初心に帰って、厚田の複合施設「道の駅」を成功させる事によって、地域協議会が 10 年間やって参りました地域活性化の総締め括りだと思いますので、これは 10 年やってきての丁度、節目ですので、それからまた、「道の駅」が独り立ちして動いていく為には、四、五年かかります。丁度、地域協議会があと五年ですから、五年、地域協議会の委員の方達がそれをサポートしていくという事なんです。何か、私の話は丁度、15 年で、上手い具合に夢が実現し、実現したものを育てあげるという事で、15 年良いところだなと思っておりますので、あと、宜しくお願い致します。

という事で、今日は三大話で私の挨拶に代えます。暑いのに、熱い話をするなという感じですね。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

- ・「北の海」厚田アクアレール 第3回水彩画展について（大黒委員より資料に沿って口頭説明）
- ・あつた夏祭り～俺たちの2015～（厚田支所 地域振興課 寺内より資料に沿って口頭説明）

5. 協議事項

・石狩市過疎地域自立促進市町村計画について

佐藤会長： それでは協議事項に入って参ります。石狩市過疎地域自立促進市町村計画についてという事で、これは法律でちょっと5年間延びましたので、スケジュールも変わりましたという事で、よろしくお願い致します。

相原主幹： 皆さん、お晩でございます。皆さまのお手元の方に、石狩市過疎地域自立促進市町村計画変更スケジュールというA4横の資料が一つと、それから厚手の石狩市過疎地域自立促進市町村計画を1部、お手元の方に資料として配布してございます。この件につきまして、私の方からご説明申し上げます。

この石狩市過疎地域自立促進市町村計画は、平成24年度の過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律という長い名称の法律改正により、現行法の有効期限が平成32年度まで5年間延長されております。これに伴いまして、先ほどお話しをした自立促進計画の年次が平成27年迄となっているものを、同様に32年に5年間期間延長を行なう。それでこれまでの計画の進捗状況を踏まえて、文言の修正や登載事業の精査などを今年度、行なおうとしております。

今回の見直しは、合併後でいうと平成22年度に同様な変更作業を行なっております。この時と、基本的には大きな変更は無いと考えておりますので、データ等の時点修正とか、登載事業の追加等の案をこれから取り纏めていきたいと思っております。

今後のスケジュールは、先ほどお話ししたスケジュールの一枚ものの方に、大よそ今年度と来年度の事が書いてありますが、現在、関係所管に内容を協議しておりまして、8月の下旬には、「計画の素案」を策定していきたいと思っております。その素案を元に、厚田・浜益の地域協議会との協議、それから北海道との協議を重ねて、11月頃に原案として確定し、12月にパブリックコメントを募集するという手順を踏みまして、翌1月に「最終案」を確定し、第1回定例議会に上程する運びでおります。計画の方に、平成22年度から27年度までの過疎計画が色々書いてございますので、皆さん、そういえば、こういうのあったなと思っている方も多いと思いますけど、今一度、中身の確認等をお願いしたいなと思います。

今日は、このスケジュールの説明という事で、内容の方に何かあればあれですけども、特に、ここで今、決めるという事はございませんので、スケジュールの提案だけにしたいと思います。

佐藤会長： はいありがとうございます。そうしますとですね、地域協議会に関わる問題は9月の素

案の説明という事で、これはまた、ございますね。

相原主幹： はい。

佐藤会長： それから 11 月には事前の協議を行い、12 月に改めて、その案で良いかというのを審議し協議致しまして、パブリックコメントを経て、あとは、地域協議会の方からは手が離れるという事でよろしいですね。

上窪主幹： はい。

佐藤会長： という事で、この石狩市の過疎地域自立促進市町村計画が5年間延長という事でありますので、よろしいでしょうか。今日は、そういう事の報告だけという事です。

高田課長： はい。

佐藤会長： それで、出来ましたらですね、委員の皆さん方に時間があつたら、平成 22 年度から 27 年度までのこのちょっと厚いんですけどパンフレットがありますので、これを一度、目を通していただいて。

渡邊副会長： これにはあれですか。「道の駅」とかも載ってきたりするんですか。

上窪主幹： 元々、観光施設という事で載ってございまして、継続して載せる予定でございます。

高田課長： あまり具体的には出していないで、色々なものに使えるようにという事で、大雑把にこれ載せているんですよ。大体のものは網羅出来るのかなというところなんですけど、もし、これからこんな事業が展開するんじゃないかというところで、これから読み取れないような、そういうものがあれば、これも載せたら良いんじゃないかというようなご意見をいただければ良いのかなと思います。これに載っていないと過疎債が使えませんので。

佐藤会長： そうですね。だから、例えば、交通通信体系のところで、将来的にデマンド交通をするとなった場合に、何らかな形でここに載せておかねばならない。

高田課長： それか、読み取れるかどうかという部分も。

佐藤会長： 読み取れればOKですよ。

高田課長： OKです。

佐藤会長： という事です。

高田課長： 具体的なものでいいです。

佐藤会長： はい、という事も含めてですね、ちょっと目を通していただければ助かります。

・厚田区地域協議会活動報告小冊子について

佐藤会長： それでは協議事項の２点目、厚田区地域協議会活動報告小冊子についてという事で、前回も行ないましたが、今回は、一応、前回の宿題と言いますか、地域を活性化し、地域のみinnで、或いは、一人も多くの人達と地域を盛り上げていく為に、こんな事は出来ないかなとか、或いは、こういうアイデアがあるという事を委員の皆さん方に少し考えてきていただきたいという事で、その為の資料として、「海士町をつくる 24 の提案」というのを配ってあるのですが、これを見ながら、海士町は一つに島ですけども、結構、参考になる地域参加型の提案が幾つかありますので、それを見ながら、それらをヒントにしながら是非、皆様方のアイデア、考えを出していただきたいなという風に思います。

この小冊子を発行する目的というのは、10 年という節目も当然ありますけれども、この厚田区の現状及び将来を通して考えますと、少子高齢化がこれからも続いて参ります。過疎化で益々、寂しくなる地域を少しでも元気にする為、自分達で出来る事は無いのか、自分達の参加で地域を元気にし、心豊かな生活を送れるようにしようというのを目標に、その小冊子がそういう地域の人々にそういう火を灯してくれれば、小冊子の意義があるだろうという事ですから、その小冊子の目的はそういうところにおけるんだと思うんですね。それから、その小冊子の中の中身の柱ですけど、それは大きく別けたら、そんなに無いとは思いますが、一つは、やっぱり“協働の精神”というのを中にやりたい。何故かと言いますと、何でも地域で困ったら役所に言ったら何とかしてくれるというのが、ずっと今までの慣習になっているんですが、ですから、嫌々、そうじゃない、自分達で出来る事は自分達で、ここのところはやっぱり役所に頼まないと駄目なのかなという風にして、そうやって役所と地域が“協働”で地域を豊かにしていくという、この“協働の精神”に基本的に則って、みんなでやろうという事なんですね。やっぱりこう、地域住民が手弁当のボランティアで地域を元気にする活動が幾つか立ち上がってきましたから、こういう事もやっぱりちゃんと紹介する必要があるかなと思いますし、その活動だったら自分達も参加出来るよなって思わせる、思ってもらおうという風にしないとならないなと思います。

3 点目は、一人の小さな力。一人の力は小さいけれども、それを集めれば、結構な夢が叶えられるという事を小冊子の中に盛り込みたいですね。ですから、柱は大体、そういう３点位で良いかなと、これはまた、検討の段階で色々が増えていくだろうと思いますが、スケジュールや何かは、この間、相原主幹が説明をしてくれたとおり、そういうスケジュールで進めていきたいという事であります。

という事を大体イメージしながら、皆さん達のアイデア何でも良いので、今、地域で困っている事、或いは、地域の人達を見ると、こういう事をやらなければならないよなという、それは自分もするんだけれどもね、自分一人の力ではどうにもならないので、一応、提案をして、それもそういう中に入れて欲しいなという皆さんのご意見、アイデアを聞きたいと思います。意見を全て載せる訳ではありませんので、委員のどなたからでもよろしいのでどうぞ。あとで編集委員が色々考えてやりますので、言ってみれば、先ほど実施したリラックスタイムのように言い放題です。地域おこし協力隊の人、役所の人達も遠慮無く言って下さい。地域と役所の“協働という精神”を活

字にしたものですので。

※ここで佐藤会長より、会長作成の資料を配布

【平成 27 年 7 月 30 日付け 地域協議会の小冊子作成について】

今、地域協議会の小冊子の作成についてという事で、検討内容、目的、内容、方法というのが 1 枚目に書いてあって、2 枚目からとなります。1 枚目については、今、ちょっと説明をしましたので、2 枚目は、参考事例として、先ほど言った「海士町をつくる 24 の提案」を参考資料としていただきました。この提案は前にも説明したように、1 人で出来る事というのが、最初に書いてありますよね。そして、10 人で出来る事、或いは、100 人でというような、そういう数の括りで人数の括りでこれはまとめてあるんですね。それを例えば、学校教育に関しては、それではどんな事をすれば良いのかというんで、学校統合ですね。この今、2 ページ目なんですけれども、私の配った資料で、学校統合や幼小中連携した一貫教育という事で、76 ページに未来に残したい故郷があります。皆で学ぶ島のエコになりましょうという事で、そこに提案がありますよね。そういう、皆で学ぶ事をやってみようという事です。そういうように、これはグループ、或いは、人数で項目を括ってみました。そこにページを載っけてありますね。基本的な生活習慣や社会性を子供達に身に付けさせましょうというのは、これは家庭と地域の連携ですから、これも同じように 76 ページというように、こういうように学校教育、それから地域の共育、これは共に育つと書きます共育ですよ。そういう風に項目で括ったら、その 24 の提案の何処になるのかなという対応表なんです。ですから、それらをちょっと参考にしながら、あっそうか、これは保健衛生の関係かだとか、或いは、高齢者福祉の問題だとか、あっそうか、ごみの問題はこれだ、70 ページなんだというように、ちょっとそういう大きなもので括ってあります。そうやって対応をさせながら、あっ、こういう事が重要なんだなという事を提案していただければという風に思います。

【発言の無い時間】

皆さん、もし「海士町をつくる 24 の提案」を持っておりましたら、72 ページを見て下さい。これはコラムになっておりまして、「記憶に残る給食を！ 島民の想いをレシピにのせて 地産地消の給食づくり。」と書いてありますよね。これは普通に見たら、今までの学校給食なんていうのは、もう大体、形にはまって栄養士さんがものを作っていますよね。そして、各学校に全部配り、給食センターが配りますよね。そこで、例えば「道の駅」が出来て、そこでそのレストランや何かをやります。そしたら、そこで残るとか残らないとかでなくて、そういう人達が、今度は、地域の給食も含めて作るという事で、所謂、地域の学校の給食ですね。今までだったら、こういう縦割りで、その例えば、市教委がやっていた。でも、「道の駅」は「道の駅」というんじゃないで、それはもう、合体した形でそういうものを創っていくという、こういう大胆な発想をもうしてもいいのではないかなと思うんですよね。給食を運ぶのは遠いでしょう。給食センターから、こっちまで運んでくるとなったら、もう冷えてしまうので、そうではなくて、注文があって作っている人達が沢山いて、子供達の為に、「地産地消」の意識で、それこそ心に残るといとか、教訓に残る厚田の給食が食べれるという、こ

ういう発想も面白いのではないかなと思うんですよね。だから、そういう事が実現するかは別として、そういうような方向で考えてみようとか、これは何をいうかと言ったら、「道の駅」で一番お金が掛かるのが人件費なんです。人件費というのは、お客さんが沢山来ている時は大変なんですけれども、暇な時は遊ぶんですよ。家なんて、お客さんが来ても断る事もあるのに、来ない時は、今日みたいに一人も来ないんですよ。そういう事というのは、「道の駅」では多分無いと思うんですが、ただ、数の面では土日は多いとかあると思うんです。人件費を非常に上手にコントロールしていても、そんなにしきれない。そうやったら、やっぱり給食とか、一人暮らしのお年寄りの配食サービスとか、そういうものも全部、地域だから出来るというのも含めて、そういう事も考える必要があるのではないかなと思うんです。だから、そういうアイデアも出していただければ、やっぱり検討して実現するかも知れない。これね、海士町は凄く考えており、トータルで考えているんですよ。だから、保険料が掛かる高齢者保険とか、高齢者の医療保険が掛かるというのは、不健康にしていると必ず病院に掛からないとならないんですよ。だから、その地域ではそういう病気にかからないようなものをやろうというので、例えば、保険のところで、健康づくりと生きがいづくりの推進という事で、これは24ページですが、そこに書いてあるように、私達はほとんど車社会で、ちょっとコンビニに行くにも車ですよ。年を取ってから100mを歩くのも思い通りにならないというならば別だけれども、例えば、今ここにいる委員の人達だったらね、例えば、コンビニまで歩いていこうとか、なるべく車に乗らないという運動を皆でやらないかという事をキャンペーンでも何でも良いので、やるとしたら車では出られない、出会えない人や時間をもう一度、歩きによって再発見しようという事で、厚田の良さも歩いて初めて解るっていう程、例えば、一ヶ月キャンペーンをやって、皆で歩こう運動とかそういう事をやる。そういう事が、健康づくりや生きがいづくりに繋がっていきまわっていく。だから、そういうキャンペーンや祭り、それからスタンプラリーとかそういうのもそのお店ばかりのスタンプラリーだけではなくて、万歩計に登録されているのを年間で地球が一周出来ましたというのは、ちょっと無理だよね。ここから函館まで歩いて行きましたという事で、多分、240km位だと思うんですけど、そういうキャンペーンをやりたいとか、要するに、厚田の目標は、保険料と言いますか医療費を減らすという事で、厚田にいる人はピンピンコロリという人生を送りたいというキャッチフレーズで、そうならないのは残念ですけども、だけれども、それは心掛けとか意識次第でそれに近づいていく事も可能だろうという事で、私、常々思うんですけども、でも私ばかりがしゃべっていても駄目なので止めます。

委員の皆さん、色々なアイデアや考えをどうぞ。

大黒委員： 中札内村に方にこの前、たった一日だったんですけども、行って来たんですが、そこで感じたのは、あそこには美術村みたいなものがあるのですが、素晴らしいんですよ行ってみると。それから、有名な人がいると思うんですけど、誰だったか。

沼倉隊員： 田中義剛さんですかね。

(地域おこし協力隊)

柴田肇委員： 花畑牧場の。

大黒委員： ああいう有名な人をどんどんと持って来て誘致するんだね。ビートたけしも来るとか言っていましたよね。ケタが違うなという気がしました。そして考え方、「道の駅」に私行ったんですけど、レストランがあるんですけど、レストランというと普通は千円位だと思うんですけど、そういう所は全然行かないんですね。ワンコインの 500 円でそれ以上は高くないというお店がずっと並んでいて、凄く繁盛していて、蕎麦屋もあるのですが、蕎麦屋に行くと千円位なので、千円を越すと人は来ないね。店を見てもガラガラだよ。ところが、500 円でワンコインとなると庶民的というのか、何か知らないけど、凄く繁盛していると感じましたので、我々も考える時には、ワンコインで食べれるようなものをやれば、まだまだ伸びるかなあと感じました。皆、車で来るし、貧乏なんだよ。

佐藤会長： 段々と皆、貧乏になるんですよ。

大黒委員： だから、あんまり高いものは無理だなと思いましたね。それから、宿泊施設があるのですが、小学校の統合されたところですが、そこはスポーツ関係の合宿が出来るような施設で、その時、私が行ったらサッカーをやってまして、サッカー部がバンバン地方から来てやってました。教育長に会ったら、今、凄く良いんだという事で、凄く繁盛しているんだという事を言っており、結局、帯広とかから余った人達がドンドン来るから凄く良いという事で、宿泊も凄く安く出来るので、凄く良いと言っていました。そういう事で、行ってみたらですね、中札内には参考とするところが凄く多いなと感じました。

佐藤会長： もうアイデアですね。

大黒委員： アイデアも凄いと思いました。一回、皆で行ってみません。

柴田(肇)委員： 行ってみたいとは思いますね。

大黒委員： 村なんだけど、凄く町に活気があるので。人口も 4,000 人位ですよ。

佐藤会長： それなんだわ。その活気があるっていうのがさ、我々が望んでいるというか、求めている地域づくりでしょ。

大黒委員： 私は、そこに行ったのが 2 回目なんですけど。以前よりも活気がありましたね。

佐藤会長： あのね。美術村ってさあ、ちゃんと美術館とか何とかって。

大黒委員： あるんです。四つ位あるハズですね。

佐藤会長： えっ、そんなにあるんですか。

大黒委員： もう本当、専門なガードマンとかもセットして置いてあるんですよ。四つ位が、その美術村の中にあるんですよ。

佐藤会長： 中札内近いしょ。

大黒委員： 自分、居た所でしょ。

佐藤会長： 近いんじゃないくてね。そう、紹介して下さい。5分間で、その中札内の素晴らしいところをお願いします。村の自慢話をどうぞ。

沼倉隊員： 自慢話よりも、私は、中札内よりもここの方が良いんです。私はそう思います。

(地域おこし協力隊)

大黒委員： 拍手してやればいいね。その位思っているんだね。

佐藤会長： 本当にそう思っている。

沼倉隊員： 本当にそう思っています。

(地域おこし協力隊)

大黒委員： 教育長が私の友人という事もあるので、そう感じたのかも知れないね。

美馬委員： ここと比べて。

佐藤会長： ここも良いけれども、中札内にもやっぱり良いところはある訳でしょ。要するに、厚田がこんな事を参考にすれば良いなというのは何なのか。100%完全という事は無いので。

沼倉隊員： 六花亭に花畑牧場という事もあり、企業誘致は上手だなと思います。企業がやっている事なので、行政のお金は関係ないですよ。

(地域おこし協力隊)

柴田(肇)委員： 会社だけが儲かる。

美馬委員： 地元の雇用も。

沼倉隊員： 地元雇用もしているので、それは良いよねと思います。

(地域おこし協力隊)

佐藤会長： だから、企業を誘致すると誘致した企業によって、雇用が生まれる訳でしょ。だから、そういうメリットはあるよね。

沼倉隊員： そしてイメージも良くなるので。

(地域おこし協力隊)

佐藤会長： でさ、その企業誘致が上手いんですよ。そして、今、大黒委員が言ったように美術館があるという事で、所謂、文化が盛んですよ。やっぱりね、社会インフラはこの二つなんですよ。これが車の両輪だという事を前に言ったと思いますけれども、その二つがちゃんとしていなかったら、人が集まらないし、来ないんですよという事で、良い

ですか自慢は。まだ、ありますか中札内の自慢は。

沼倉隊員： 自慢は無いです。コッチの方が良いです。
(地域おこし協力隊)

盛重委員： 厚田の方がというのは、どこが良いですか。悪いところばかりではなくて、良いところを伸ばせば良いと思うので、厚田の良いところというのは、なかなか自分達では解らないので、客観的な目で厚田の良いところというのは、どういうところなのかなというのを教えていただければと思います。

沼倉隊員： 厚田のどこが良いかというと、人の繋がりが強固なところですね。ソーシャルキャピタルみたいなものを経済的価値に変換できるのであれば、凄く高くなると思うんですここは。凄く高い水準にあると思います。

【場内からソーシャルキャピタルって？という声が複数】

盛重委員： そんなに繋がりが良いかな。

沼倉隊員： 凄く良いと思います。
(地域おこし協力隊)

佐藤会長： 盛重委員、良いみたいですね人の繋がりが。

盛重委員： まだまだなような気がしているんですけどね。

沼倉隊員： 私は十勝にいたからどうしてなのか、まだ、解らないんですけど、良い意味で十勝は一人一人が自立しているのかなあという気がしています。
(地域おこし協力隊)

佐藤会長： 良い視点ですね。自立ですね。

柴田(肇)委員： それは、開拓の歴史が十勝はやっぱり自分達で、本当に苦労をしてやってきて、十勝モンローと言われる位で、十勝の事は全部、自分達でやろうという風土がずっと出ている地域という風に聞いてましたので。

佐藤会長： 依田勉三から始まってね。

柴田(肇)委員： 厚田は漁業から発展しているので、色んな所から人は集まるんだけど、団結しない所ではないかと昔から思っていたんだけど。

佐藤会長： なるほどなあ、やっぱりその地域の文化ってあるからね。

美馬委員： 農家と漁師さんとは、それぞれ本当に違い特色もある気がしますね。

柴田(肇)委員： 中札内、十勝は皆ね、農家ですよ。

佐藤会長： それとさあ、十勝は何と言ってもねえ、大規模経営ですよ。ガッチリ決まっていますよ。だから、個人でやったって、でもねえ、厚田は限られている田畑でやらないとならないからね。なかなか良い視点で見てくれているな。良いですかね、あと質問は。

盛重委員： はい。

大黒委員： その教育長がさあ、第3回展の展覧会には是非、行きたいというんですよね。来るっていうんだよ。

佐藤会長： 出品はしないけれども、来ると。

大黒委員： 出品はしないんだわ。絵を描けないから。その時に、捉まえて色んな話を聞いたら良いなと思う。

佐藤会長： その時は、紹介して下さい。

大黒委員： 静かにして行きたいと言っていました。

佐藤会長： あと、皆さん達、色んなご意見ございませんか。今、なかなか良い話が出ましたね。柴田委員他に何かありませんか。

柴田(肇)委員： やっぱり、「道の駅」の方向は見えたという事で、さっき会長がおっしゃったように、これからが大変だなという風な想いもありまして、ちょっと自分的にも、苦しんでまして、何というか、大きな声を上げてやるぞと言って、方向性は決まったものの、自分の年齢を考えますと、3年後、体力が残っているかなと、言うなればどうやって、どういう風にして何をどうするかとなると、とっても大変なので。

佐藤会長： 体力が衰えたら、頭で勝負だ。口先だけなら駄目ですよ、実行が伴わなければね。前田委員どう思います。

前田委員： そんな事無いです。

佐藤会長： 前田さん、何かアイデアは無いですか。

前田委員： アイデアですか。難しいというか、柴田委員が言ったように宿泊施設も必要になってくるだろうし、やっぱり僕がやりたいのは、山の水族館みたいなのを本当にやってみたいなというのがありまして、それをやるんだったら、僕は館長がやりたいなという位、何かやりたいなというのはあるんですけど、そういった子供達を引き付けるといのは、やっぱり生き物なんですよ。だから、そういった厚田で捕れる生き物だったり、川で獲れるという事で、その川でもいっぱい魚がいるので、望来もその川でいつも捕まえて子供達に見せているというか、やっているんですけど、そういったものもやりたいなと思って、理想と言いますか、そういう夢はあるんです。実際

に、実現できるかどうか解りませんが、そういったものをやれば、もっともっと人を寄せれるんじゃないかなというのがあります。

佐藤会長： 高田課長、なんか面白いネタが出てきましたよ。

高田課長： ちょっと使えそうですね。

佐藤会長： あそこの川を「川の水族館」にしてしまっ、川で生息する生き物をああそう、ああやったらお金を掛けなくて出来るとか、もう考えていると思うんだ。

河野委員： 普通の家庭用の水槽で幾つかあるだけでも、面白いと思う。

前田委員： そうですよ。ニホンザリガニとかもいるんでね。

河野委員： サンショウウオとかも、そこら辺にいますので、私は保育所にも仕事に行っているんですけど、春先になると厚田のスキー場の近くの水溜りで蛙の卵がサンショウウオの卵どっちでしょうという感じで獲ってくると、最初はそっくりでどっちか解らないんですけど、専門家の方なら解るんだと思うんですけど、蛙だと思っていたらサンショウウオだったり色々ね。

佐藤会長： それ育ててみたら、すぐ解るもんね。

高橋委員： 家は池で飼っています。

河野委員： 当たり前を感じている事なんです、この間も、理科の先生とか家庭科の先生が他の地域から異動されてくると、望来小学校も裏にため池みたいなのがあって、サンショウウオとかも獲り放題でいっぱいいるのが、凄く貴重だという事で、わざわざ教室に持って来て授業で使ったりとか、私達には当たりの事なんですけどね。

美馬委員： 子供とか、今、札幌にいますけど、帰ってくると自然が全然違うと言うんですよ。だから、星も綺麗だし、夜と朝早くしか通らないんですけど、凄くホッとすると言って、全然、違うって言って、帰って来たら凄くリフレッシュして帰って行くんですけど、私達はそれが凄く当たり前だと思っているんですけど、意外とこれだけの自然があるというのは、希少価値なんじゃないかなという風に思うんですよ。こっちには海があって、あっちには山があるし、山も凄く深いし、自転車の人にしても凄く多いじゃないですか、それで札幌の人とかに聞いたら、信号が全然無いから、すんごく自転車にしてもオートバイにしても気持ちが良いと言うんですよ。意外と自転車も凄く早く行って帰ってくるらしいんですよ。朝、早く出たりとか、そういう何かこうイベントみたいな、例えば、自転車でここからここまでとか、そういうイベントとか、あとは、発足の方だったら、夏休みに必ずキャンプだとかそんな感じで何か、子供達に向けて自然観察だとか、そういう事をやったりだとか、それこそ海は地引網の体験も出来るし、山は色々な収穫が出来たり、今も実際に農業の方でメロンの収穫とか、そういう自分達の何て言うんですか、一年に体験を一回、それこそ収穫

だけでは無く、植えるところから何回かこう見に行って、そして最後に持って帰ってくるみたいなのをやっている所も実際にあるけれども、それこそ宿泊施設とかがあったら、受け入れる事も出来るのではないかなという事で、何か勿体無いというかね。

佐藤会長： 自然がね。

美馬委員： あ、活かさないでね。どうなんだろうという感じで、この前なんかは、この辺の自然が凄いという事を知り合いの人なんかが言っていたとチラッと聞いたので。

小島隊員
(地域おこし協力隊)： はいそうですね。聚富にお住まいの方なんですけども、建築系の札幌の会社なんですけれども、何か建物なんかを建てる時に、自然を破壊しては後々問題が起きるという事で、事前に自分達の方でそういう自然環境を調べるという事で、コンサルタントの方が聚富にお住まいで石狩の自然が、とても貴重なものだよというようなお話しで、アオイガイが住んでいたり、アンモナイトみたいな貝なんですけど、それがあったり、浜益の方には、オオムラサキの北限の地であるですとか、猛禽類が住んでいたりですとかというので、あとは、濃昼参道の所で、ヒメギフチョウ。小さい蝶なんですけれども、アゲハチョウなんですけど、カタクリの群生地に寄って来る蝶がいて、これはマニアにとっては堪らないものであるですとか、こういう事に詳しい方が聚富の方にお住まいでして、この自然、石狩というのは北海道の中でも貴重なものが揃っているんだよというお話しですとか。

高橋委員： その方は、私も知っておりますが、樹木の種類とかも詳しい方ですね。

河野委員： そういう方を何とか引き入れて。

高橋委員： 仕事で札幌に行ってる方なので、なかなか暇が無いかなと思いますけどね。

柴田(肇)委員： 是非、地域協議会委員に。

佐藤会長： 今、美馬委員がおっしゃったように、アメリカって長期の夏休みに、もう、一ヶ月間ドーンと入れちゃうんだよね自然環境の中に、そしてそこで教育する訳で、これも結構お金が掛かる訳だけど、毎年、但し、その時は大変スタッフ揃っているから、今、言ったように植物に関しても、動物に関しても、鳥に関してもそれぞれのプロがちゃんと付いてね、毎日楽しいスケジュール、プログラムがあって、それを心待ちにしているんだよね。休みになってからさあ、そういう事を厚田は札幌からすぐなので、そういう事が出来ると良いよね。

河野委員： 昨日の夕刊の一面にも、小樽だか銭函だか、ここら辺から厚田、望来迄の海岸がという事で、何が書いてあったかは忘れたんですけど、凄く良い事が書いてあったんですよ。手付かずの自然じゃなくて、何でしたっけ。

柴田(肇)委員： 原生林がどうのこうのとかな。

河野委員： とっても良い自然が残されていてというので、三線の辺りはバギーとか乗り入れてちょっと大変な事になっていてという、そこですね。けど、やっぱり私達のすぐ近くに当たり前のようにある、何も感じないものが貴重なものなんだなという事で、何て書いてあったかは詳しくは覚えていないのですが。

佐藤会長： だから、長く住んでいると、もう全然、素晴らしさを感じないけれども、でも、貴重な教育資源とか環境資源があるという事でしょ。だから、そういう教育をするように言うんで、地域と協力をした環境教育を推進というところで、やっぱりあるんですね。地域の自然や人材を活かした環境教育。未来に残したい故郷があります。そうなんだ、未来に残していく厚田の故郷っていう今のアイデアでしたね。

河野委員： そういう自然環境みたいなね。あったらと思うけど。

佐藤会長： ネイチャーガイドというやつですね。

河野委員： 結構なものが出来るんじゃないかなという。

佐藤会長： そして、そういうのが好きな人にガイドになってもらうんだね。

小山委員： 私もちょっと思いました。観光ガイドという、自然をガイドして歩く人が、資料館とかそういう所を説明して歩くという事で、京都とかでは結構ありますよね。

佐藤会長： ありますよね観光地ではね。

小山委員： ああいう人達を育成するというのを、お年寄りから聞いて、若い人に受け継いでいくという事になるんですけど、そういうのって良いのかなと言うのは、ちょっと考えたりしますよね。

佐藤会長： 家に来るおばさんで、ツルヤさんという方がおりまして、そこら辺を飛んでいる鳥だったら、僕は大体、カラス、トビとかで4種類位しか解らないんだよね。だから、皆そういう風に見えちゃうんだけど、だけど、飛んでいる鳥をどういう種類なのか、また、雄と雌まで区別するんですよ。眉唾だろうと思ったんですけども、ちゃんと止まっているのを双眼鏡で見ると、確かに、色も何でちゃんと見えるのかなという事で、だから、そういう人は単なるおばさんでしょ。どっかでアルバイトしている訳じゃ無いから、こういう人達をガイドに頼んで、そして、夏休みにそういう子供達を自然の中で、環境の教育をするとすると、これは結構、札幌からも来るね。

柴田(肇)委員： ある程度、纏まった自治体というか、一つの何なり、何なりであったところが、大体がテレビなんかを観ていると、必ず、環境ガイドとか、歴史をその話すガイドさんとかというのは、ボランティアでいますよね。言われてみると厚田って、居たっけなぁと思うと。

佐藤会長： いや、そういう制度が無いから。

- 柴田(肇)委員： あっそうなんですか。それもやっぱり大事な視点で、今後、そういう事に造詣の深い人に協力をしていただいて、歴史なんかだと、凄く詳しい人がいると思うんですよね。そういう人も育てていかないとならないと思うので。
- 佐藤会長： あんまり詳しくてもね、素人の人にはチンプンカンプンですから。
- 小山委員： そういう方の話を大方聞いて、あとは掻い摘んで、若い人達がそれを受け継いで、ガイドにくっ付いて歩くとかそういう形ですよ。1から10まで全部と言うのでは無くて、長時間時間が必要ですから、やっぱり探索して歩くには時間が限られているでしょうから。
- 美馬委員： 最近、テレビで観て面白かったのが、何処だかの観光地で川をラフティングと言うんですか、その人が外国の人なんです。凄いテンションの高いお兄さんで、雨がざんざん降っているのに、今日は最高の日和だと言って、芸能人の人が川を下るんですけど、凄い面白そうに下っているんですよね。前に、厚田中学校の教頭先生だった先生の。
- 佐藤会長： 何ていう先生だった、石黒さん。
- 美馬委員： 石黒さんなんですけど、ラフティングじゃないんですけど、カヌーをやって随分と沢山人を集めてやっていたみたいなので、厚田川は凄く魅力的らしいので、あんなのもしながら、そういう自然を見るだとかという事で利用して色んなのをと思います。
- 佐藤会長： 今、厚田のあの川はどの位まで上から下って来れるの。
- 高田課長： ずっと出て来れますよ。
- 佐藤会長： ずっと出てこれるの。
- 高田課長： 実際にやってますから。
- 柴田(肇)委員： こういう事をやる場合にはね、何処か役所に届け出たり、許可を得なければならぬんですか。それとも、届出だけで良いんでしょうか。
- 高田課長： 多分、許可はいらないと思います。わんぱくスポーツとか、管内の子供達が集まってやっているんだけど、それで川下とかやってますね。お金を取ってとなると、問題や色々あるかも知れないですけど、事業なので。
- 柴田(肇)委員： 集まれと言って集めても良いですよ。それで来た人達が、厚田で買い物をして何かお金を使ってくれれば良い訳ですから、そういうイベント自体でも。
- 佐藤会長： 金掛けれないと言ったら、大変なもんだよ。

柴田(肇)委員： お金を貰って主催するとなると、責任も発生しますので、自己責任でやる部分については、何も。事故があった場合を考えると。

佐藤会長： アイデアを言い残したという事になると、相原主幹、これ何回位続けられるの。

相原主幹： 前回の地域協議会では、遅くとも12月迄に計画というか、小冊子を纏めて印刷をしたいというお話しをしたと思います。あの話をしたのが、今月の初めだったと思うんですけれども、それから色々こう考えて、もう少し、今、会長のおっしゃった通り、もう少し、余裕を持っても良いのかなという想いが段々強くなっております。今回、地域協議会のメンバーさんも、一応、9月末で2年をお迎えになりますという事も踏まえて、現メンバーでは、8月と9月の2回、そして新メンバーでもその後、複数回と考えておりますので、片手に余る位の回数は出来るかなと思っております。

佐藤会長： はい、ありがとうございます。そうすると、今後は、ある程度の雛形みたいなものをちょっと作りながら、皆さんの意見を出して、その中にアイデアを詰め込んでいくという形にしようかな。

それじゃ、皆さんのご意見・アイデアは、まだまだいただくという回数がございますので、その時にまた、日頃、この意識の中にこういう事が良いのではないかという事をお考えいただきながら、また次回に、話し合いの中で出していただければ良いものが出来ると思います。

大黒委員： 今日、こうやって初めて虹が原の会館で開催した訳ですけど、凄く雰囲気良かったなと思いますので、こういう風に移動してやって下さい。そして、帰りには老人クラブの絵が飾っておりますので、鑑賞して帰って下さい。よろしくお願いします。

佐藤会長： 入る時には、全く気付きませんでした。

大黒委員： そういう人もいますので、よろしくお願い致します。

河野委員： 座席の距離が近いので良いですね。

柴田(肇)委員： 他の所で開催する時も、テーブルをもっと寄せた方が良いと思いますね。

佐藤会長： それでは、相原主幹お願いします。

相原主幹： それでは、小冊子について最後に、事務局から一つ、ご報告と言うかお話しがございます。前回、小冊子を作るに当たり、編集委員を皆さんにお願い出来ませんでしたというお話しをしました。その場では、皆さんなかなか私はちょっとという感じでしたので、事務局の方で後日、お願いしますので、その時はお一つ、快くお引き受け下さいという事で話しをしておりました。あれから、委員選考の方を事務局でも色々と考えまして、今日、この場でお願いをしたいと思っております。

先ほど、会長ともお話しをしたんですが、やっぱり編集委員の会長には、まず会長

に入っていたきたいという事で、まず、佐藤地域協議会会長、それから今日、欠席しておりますが、今委員という事で、今委員の方には事前に打診をしております、内諾をもらっております。そして、最後にもう一方、この方も今日、欠席されておりますが、築田委員となりまして、築田委員も時間が大変かも知れないけど、自分が協力出来る事であれば良いですとご返事をいただいておりますので、この3名に現委員の中からはお願いしたいと思っております。

前回から時間が経っておりますので、私やっぱりやりたいですという方がいれば歓迎致しますが、いないようなので、それはまた、この次という事で、その時にも、少しお話しをしました第2期から第4期迄の委員さんにも、是非、入っていただきたいという事で、何名か事務局でも検討をしていたのですが、ズバッとこの方に入っていたかどうかという形式よりも、ある程度、現委員でこの小冊子の中身を固めた段階で、かつての委員さん何名かにも目を通していただいて、ああ、こういうのも書いた方が良いのではないかというような、ご意見を頂戴するという事で、編集委員としてはきちんとした形で指定をしないという風な方向でいきたいと思いますが、その辺、皆さんいかがでしょうか。

佐藤会長： はい。

相原主幹： それでは、そういう方向で進めたいと思いますので、佐藤会長を始め、築田委員、今委員には宜しくお願いしたいと思います。

佐藤会長： それからですね、先ほど、相原主幹の方から言われたのですが、この編集を10年を境にして一応、歩みとこれからを作るので、是非、私も微力ながらお手伝いをやりますという人は、事務局にご連絡を下さいという事で、お時間になりました。

6. その他

次回会議等の日程について

平成27年8月31日（月） 18：30 ～ 厚田保健センター 保健研修室

7. 閉会

平成27年8月31日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐 藤 勝 彦